

地域とともにある学校

コミュニティ・スクールだより

あいさつ運動

本年度も「豊かな心」を育成するための大切な取り組みの一つとして「あいさつ」ができることを挙げています。そして、学校評価の目標にも「レベル3」以上の挨拶ができていと自己評価する児童の割合90%以上を目指しています。

レベル4のあいさつを！

レベル5	自分から、立ち止まり、 <u>えがお</u> で、会釈して、はっきりとした声で
レベル4	自分から、 <u>立ち止まり</u> 、会釈して、はっきりとした声で
レベル3	自分から、 <u>会釈をして</u> 、はっきりとした声で
レベル2	<u>自分から</u> 、
レベル1	声をかけられて、小さな声で

この表は、児童にとって「どんな挨拶をすればよいか」が分かるように作られたもので本校独自の「レベル表」です。この表があると「自分ができている段階」が分かり、「次に目指す挨拶」も分かりやすいため、自分の挨拶を評価する目安になっています。

今学校では、児童会も大休憩に「あいさつ運動」を行い「あいさつが素晴らしかった人」を給食時間に発表しています。このように先生方と児童が力を合わせて、「よりレベルの高いあいさつ」ができるように取り組んでいるところです。

学校は「地域社会」の中の一つですから、児童は「改まった気持ち」で過ごすところの一つです。ですから学校で「挨拶」ができるようになれば、きっと登下校中でも地域の方々に「よい挨拶」ができると思います。

地域でも子供たちは「あいさつ」をしているのでしょうか。近年「不審者」等、大人への不信感から登下校中に「見知らぬ人に挨拶しない」ことにも気を使っている子供たちですから難しいかもしれません。

しかし、「顔見知りの近所の人」「いつも登下校を見守ってくださるボランティアの方」など信頼できる「あいさつ」をしたい人には、進んで気持ちの良い挨拶ができるといいと学校だけでなく地域・保護者の方々も思っておられると思います。

ぜひ、「お帰り」「こんにちは」「おはよう」を児童に声をかけていただき、「挨拶」を催促してやってください。保護者・地域の方々にも応援していただき「気持ちの良いあいさつ」ができる児童の育成につなげたいと思います。

裏面もどうぞ

5年 田植え体験

6月8日（木）川口泰伸様のご厚意により、5年生が田植え体験をさせていただきました。川口様のご指導によるこの体験は、6年目となりました。

児童の植える苗は、一定の間隔は保つものの「バラバラ」。川口様は「最初はきれいに植えさせようと「紐」を張って植えさせたこともありましたが、今は自由に植えるようにしています。児童が植えた所は直しません。そのままの成長を見てほしいです」と笑顔で見守ってくださっていました。



川口様

児童の感想には「初めて体験しました。土の感触がチクチクして痛かったです」「実際に体験をし、お米を育てている人の苦労やお米の大切さを学びました。」「これから稲が育っていくのが楽しみです」「植えるとき深さを調整するのが難しかった。根本までしっかり植えないと苗が抜けることが分かった」など、体験したからこそ感じる思いがあふれていました。



なお、「田植え体験」には川口さんのパートナーでもある「阿知波 康祐」さん、地域学校協働活動推進員の「増田泰二」さんにもご協力いただきました。

また、「JAひろしま西条支店」からは、この「米作り体験」に協賛いただきご支援を頂いております。広報「木村」様も取材に来られており、「広報に使わせていただく予定」と伺っています。

ほんの森 読み聞かせ



平成13年から県教育委員会は「朝の読書」を推奨し、全県で「読書活動」の充実を図ってきました。各学校では、「朝読の時間」を設け、読書する時間を確保するとともに、「読み聞かせボランティア」の方々の協力も得ながら「読書」に親しんできたところです。

6月14日（水）は3名の「ほんの森」の方々が2年生に読み聞かせをしてくださいました。

3名の方、それぞれ選ばれた絵本を用意され、それぞれ読み聞かせに入る「入口?」「つかみ?」を工夫されていて「さすがだなあ」と感動して聞かせていただきました。児童は、すぐに「お話の世界」に入り込み、楽しんだり、悲しんだりと素敵な時間を過ごしていました。



28日（水）には「ほんの広場」も計画されており、児童も楽しみにしています。

